

新宮城年表

西暦・年号	記 事	西暦・年号	記 事
1600(慶長5年)	10月 浅野幸長が紀伊入国。浅野忠吉が新宮領主となり入城する。	1707(宝永4年)	10月4日 大地震。御城廻り、諸土、町方家所、垣、石垣潰れる。浦々津浪、川内へも大浪。
1601(慶長6年)	浅野忠吉、新宮城縄張り工事に着手する。	1708(宝永5年)	7月 前年の大地震による御城の大破に付、修復の絵図を和歌山役人の立合・吟味の上、江戸御屋敷へ指さる。
1614(慶長19年)	城地とするため東仙寺・香林寺を他所へ移す。	1709(宝永6年)	9月29日 本丸石垣14ヶ所、二丸・三丸石垣16ヶ所、南曲輪石垣13ヶ所崩れ、はらみ、あるいは斜いたため、築き直すことについて、幕府が許可する。御城の石垣大普請。
1615(元和元年)	12月20日 北山一揆で約3,000人が新宮城を攻める。この時、天守に大筒を配置する。	1854(安政元年)	11月5日 大地震、被害もっとも甚し。橋本水野家墓所の石碑みな倒れる。
1618(元和4年)	一国一城令で一旦廃城となる。	1872(明治5年)	1月 御城内の所々役所向きを廃止、取扱う。諸御道具、武器、残らず売りさばく。
1619(元和5年)	浅野忠吉、再び築城に着手。	1873(明治6年)	5月25日 新宮城郭、敷地とともに和歌山へ引き渡される。
1628(寛永5年)	浅野氏の新宮城が完成する。	1875(明治8年)	1月14日 明治政府が「廢城令」を発する。
1633(寛永10年)	浅野忠吉が三原へ移封、水野重仲が新宮に入る。重仲、築城工事を継続する。	1922(大正11年)	旧藩士に建物・土地払い下げられ、本丸、二ノ丸、その他建造物をすべて取り払われる。
1644(正保4年)	伊佐田の田地を堀とする。	1983(昭和58年)	11月 堀埋め立て工事完成。新宮と熊野地を結ぶ幹線道路(丹鶴町)ができる。
1664(寛文4年)	水野氏の新宮城が、優美な平山城(ひらやまじろ)として完成。	1986(昭和61年)	10月2日 新宮が生んだ茶人川上不白の碑が新宮城跡天守台下に建立される。
1667(寛文7年)	幕府、諸藩に城絵図の提出を求める。		丹鶴城公園本丸跡に、与謝野寛(鉄幹)の歌碑が建つ。
1669(寛文9年)	6月12日夜、地震。松ノ丸崩れる。		
1676(延宝4年)	閏2月28日 本丸より外への虎口・門の新規建設と石垣4ヶ所の崩、13ヶ所のはらみ、1ヶ所地形下げの築き直しについて幕府が許可する。		
	御城御普請成就。		
	2月17日 夜亥の刻、川原より出火、御天守御城は別条なし、御書院、御居間御台所、御風呂屋三階東南の御長屋、この分残らず焼失。この節南曲輪残らず類焼。		

●新宮水野氏

初代新宮領主となった水野重仲は、徳川家康の母方のいとこにあたる。幼いころから家康に仕え、家康十男の頼宣の後見となつた。元和5年(1619)、頼宣が、紀州55万5千石の藩主として和歌山に入国するに従つて、重仲も付家老として新宮に入り、同じく付家老として田辺領主となつた安藤直次とともに、紀州徳川家を補佐した。

安藤・水野家の知行所は、田辺領(3万8千石)と新宮領(3万5千石)とよばれた。両家は、幕府から見れば陪臣(幕府將軍の家来(藩主)の家来)で、大名の列に並ぶことはなかったが、尾張・水戸両家の付家老と同様、待遇は大名に準じ、将軍に拝謁することができた。水野氏は、江戸定府(江戸定住)のため、市ヶ谷淨瑠璃坂などに上屋敷、牛込原町に中屋敷、市ヶ谷原町に下屋敷を持ち、八丁堀には蔵屋敷もあった。

重仲から十代にわたり熊野地方の林産物を中心とした経済基盤をもとに領内を支配した。なかでも九代忠央は、政治・学問・文化にわたり、その手腕を大いに發揮した。

九代 水野忠央(1814~65)

忠央は、紀州藩の権力を握り、幕府の大老・井伊直弼とともに紀州藩主の徳川慶福(家茂)を14代將軍に就任させるなど幕府の中核で活躍した。

一方、学問や芸術にもすぐれ、江戸の水野邸にあった丹鶴書院の蔵書のなかから選び抜かれた国史・国文学・有職故実(朝廷や公家の古くからの儀式・作法・服装などの定めや習慣)など、貴重な内容を集めた『丹鶴叢書』を編集・刊行したことはよく知られている。

●水野家墓所

新宮市橋本にある。参道を登っていくと、歴代の墓碑と親族の墓碑16基が参道に面して並んでいる。

和歌山市直川(水野氏の所領であり、重仲の墓がある)の全正寺の過去帳には、「元和7年辛酉11月水野出雲守重仲、紀州名草郡於直川邑全正寺火葬、同州新宮橋本納骨」とある。

重仲が卒去した元和7年(1621)11月よりまもなく、この場所へ分骨を認め、墓所を定めたと思われる。その後、昭和3年まで順次墓碑が建てられたが、この地に本葬された城主は、九代忠央だけで、他は鎌倉の高松寺や四谷の戎行寺等に本葬された。しかし、歴代城主の墓碑がまとまった形で残されており貴重。



丸に立ち沢瀉(水野家)
1619年～
(元和5年)



国指定史跡 新宮城跡 附 水野家墓所

魅力は石垣にあり

新宮城は紀伊半島最長の河川・熊野川の河口山上に築かれ、紀州藩新宮領統治の拠点となっていました。多くの近世城郭と同様、明治の廃城令を受けて、建物はすべて取り壊されましたが、今も残る石垣によって往時を偲ぶことができます。



みどころ

①二ノ丸の見事な算木積み

表面を美しく加工した切石で積まれている。角を「ビシャン」という工具で細かく整え、筋を通している。算木積みとは隅石(すみいし)を大きめの細長い石で長辺と短辺を互い違いに積み上げる方法で大変強固である。



②大手道と土堀跡

大手道
高石垣からの途上ルートは改変されているが、途中から江戸時代の大手道が残っている。

土堀跡
現存する大手道には白壁土堀の基礎部分が残っている。

③鐘ノ丸の石垣
(切込み接ぎ布積み)



④松ノ丸から鐘ノ丸への柵形虎口と鏡石

柵形虎口
2つの門を組み合わせた防御スペース。

鏡石
厄除けと城主の威儀を示すために設置されている。

⑤本丸の武者返し

反りをつけた石垣は武者返し又は扇の勾配と言われ、石垣全体に反りをつけるのではなく、石垣上部で勾配を強くしていくことで反りを形成。

⑥浅野期と水野期の石垣
下段は浅野期の石垣と見られている。その上に水野期の石垣が築かれていることになる。

⑦水ノ手曲輪
熊野川に面し、港跡がある。洪水にそなえ6mもの高さの石垣が築かれている。また20棟の建物跡が発見されており、備長炭を専売していた領主水野氏の炭納屋跡と想定されている。

⑧石垣の刻印
○に点や△に横一、大の文字など刻印が見られる。現在城内の69ヶ所で確認されている。
*刻印=石垣の石材に刻まれた符号



新宮城跡散策マップ

新宮城跡(丹鶴城公園)案内図



⑨本丸から熊野川を望む



⑩本丸の搦手

搦手とは裏口のこと、反対に表口を大手という。



⑪丹鶴姫の碑

12世紀に丹鶴姫がここ丹鶴山に東寺を建立した。築城の際、寺は移された。

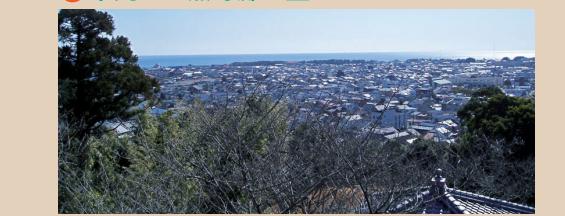


⑫与謝野寛の歌碑

与謝野寛(鉄幹)は新宮を2度訪れた。「高く立ち 秋の熊野の海を見て 誰ぞ涙すや 城の夕べに」1906年来訪の折に詠んだとされている。



⑬本丸から熊野灘を望む



⑭石割の矢穴跡

石材は鉄の矢(クサビ)を打ち込んで割られた。その矢の跡(矢穴)が残っている。



⑮川上不白の顕彰碑

川上不白は1719年新宮水野氏の家臣の家の生まれ。16歳で京都の表千家如心斎のもとに入門。32歳の時、江戸にて「江戸表千家不白流」の祖となった。後に、不白顕彰会により建てられた石碑には、「清風生蓬萊」の文字が刻まれている。



●城の真下をJR紀勢本線が

近世の城郭の下を貫く鉄道トンネルは全国でもここだけ。トンネルを出た特急列車はそのまま熊野川鉄橋を渡り、三重県へ。



*2023(令和5)年7月1日より特急「南紀」はHC85系で運転

石垣の種類

石材の加工により野面積み・打込み接ぎ・切込み接ぎに区別される。

■野面積み(のづらみ)

自然石をそのまま積み上げた石垣。城郭の石垣としては、比較的初期の時代(戰国～安土桃山時代)に積まれたものが多い。

■打込み接ぎ(うちこみはぎ)

石の表面を加工し、隙間を少なくして積み上げ、石と石の隙間に細かい石を詰めている。関ヶ原の合戦(1600年)以降用いられた。
野面積みより高く急な勾配が可能。

■切込み接ぎ(きりこみはぎ)

完全に整えた石を隙間なく積み上げる方法。基本的に石が密着しているので排水口が設けられる。江戸時代初期(元和期1615年以降)に多用されるようになった。

石材の積み方により布積みと乱積みに区別される。

■布積み(ぬのづみ)

石材を一層づつ横に並べたもので、横方向の目地が通る。

■乱積み(らんづみ)

横方向に目地が通らない積み方。

*新宮城の石垣は地元の熊野酸性火成岩を用いた「切込み接ぎの布積み」がほとんどで、石積みは美しい。

お城の種類

城は本丸・二ノ丸・三ノ丸など郭(くるわ)と呼ばれる区画の集合体である。それらの郭を並べる地形によって山城・平山城・平城の三種類に区別される。

■山城(やまじろ)

本丸・二ノ丸・三ノ丸など全ての郭を山の中に並べた城。

■平山城(ひらやまじろ)

低い山や丘に本丸などの中心的郭群を並べ周囲の平地に外郭の郭群を並べた城。

■平城(ひらじろ)

全ての郭を平地に並べた城。

新宮城は、本丸・鐘ノ丸などを高台に、二ノ丸を平地に配した「平山城(ひらやまじろ)」である。

郭の名称と働き

城の中心は本丸で、二ノ丸・三ノ丸と続く。北ノ丸や西ノ丸は本丸からの方角を示す。

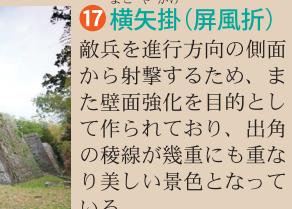
水ノ手郭(井戸郭・清水郭など)は籠城時の飲料水を確保する郭。

出丸は城から突き出して設けられ、物見と前線基地の役割。

鐘ノ丸は合戦の鐘や太鼓を打つ場所。

⑯「日本一短い」ケーブルカー軌道跡

72mという日本の鉄道史上最短の距離で営業されたケーブルカーの名残。



⑰横矢掛(屏風折)

敵兵を進行方向の側面から射撃するため、また壁面強化を目的として作られており、出角の棱線が幾重にも重なり美しい景色となっている。